

グループ名 ・代表者名	もっかい事故調 田中 三彦	助成金額	80 万円
連絡先など	cookie0506@tanaka.email.ne.jp		
助成のテーマ	福島第一原子力発電所の事故原因と推移過程に関する、運転データと客観的事実にもとづく詳細検討（その2）		

【調査研究の概要】

- ・「もっかい事故調」は、国会事故調の作業完了後も福島第一原発事故の検討をつづけている。2015年度は11回（2015年4月から2016年3月まで）の検討会を開催し、資料の収集と分析、データの解析等の作業を続けてきた。これらの成果は、雑誌『科学』などへの論文発表おこない、また、集会等（院内集会とシンポジウムをあわせて2回開催）での講演などを通じて社会的に広く公表している。
- ・田中三彦と佐藤暁は、ウィーンで開かれた「原子力リスクに関する国際会議」で、福島第一原発の事故調査と現状に関して、それぞれ報告と基調講演をおこなった（2015年4月16～17日）。
- ・ドイツ・エコ研究所のクリストフ・ピストナーさんを招いて、伊方原発の視察と八幡浜市での対話集会の機会をもった（2015年10月20日）。10月23日には、衆議院議員会館において、ピストナーさんと佐藤とがパネリストとなり、「フクシマ大惨事からドイツは何を学んだか、日本は何を学んだか」と題してパネルディスカッションを開いた。
- ・新潟県技術委員会が2015年2月21日に実施した福島第一原発1号炉原子炉建屋の現場検証の結果をもとに、田中が4階での水素爆発発生を説明し、水素爆発現象の専門家から賛同を得た（2015年4月28日）。
- ・伊東良徳は、写真のデジタルデータを画素レベルでの詳細な検討をおこなうことにより、波高計の記録と到達した波との対応を精密なものとし、「福島第一原発1号炉の全交流電源喪失が津波によるものではない」ことをあらためて証明した（『科学』2016年1月号）。
- ・日欧米の原子力に関する規制基準・技術基準の比較調査をすすめ、「日本の原発」に対する評価作業を進めている。

【今後の展望など】

- ・福島第一原発2、3、4号炉での事故推移過程についての調査。
- ・運転パラメータの可視化とそれにもとづく事故推移の解明。
- ・原子力規制委員会の事故分析検討会による中間報告や東京電力による未解明問題の中間報告の批判的検討。
- ・公開された「吉田調書」をはじめ、政府事故調による関係者へのヒアリング記録から事故状況の抽出。
- ・日本の新規規制基準と欧米の基準（Reg. Guide、EUR、KTA など）との比較検討。

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	NURIS2015(ウィーン)参加旅費、 ピストナー氏招聘費用、検討会参加旅費等	928	800		128
	宿泊費	381			381
資料費	書籍、資料コピー代等	75			75
会議費	検討会会場費、通訳費用等	483			483
印刷費	シンポ配布資料等	13			13
協力者謝礼など	講師謝礼	50			50
外部委託費	翻訳料	44			44
運営経費	ウェブサイト、ビデオ映像等	80			80
その他	通信費、雑費	18			18
合 計		2,072	800	0	1,272

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・『科学』2015年4月号 田中三彦「福島原発事故、原因究明はいまだ道半ば」他、『科学』への関連寄稿多数。
- ・田中三彦が委員を務める新潟県の技術委員会による福島第一原発の現場調査が2015年2月21日に実現した。東京電力によって撮影されたビデオと写真が下記の東京電力のウェブサイトに公開されている：
- ・<http://photo.tepco.co.jp/date/2015/201502-j/150218-01j.html> 他

高木基金 第14期(2015年度)助成 成果発表

テーマ

福島第一原子力発電所の事故原因と推移過程に関する、
運転データと客観的事実にもとづく詳細検討（その2）

2016年5月28日

もっかい事故調 田中三彦

2015年度活動内容の概要

- メンバー
国会事故調の「ワーキンググループ1」の元委員・協力調査員が中心。
- 活動内容
 - (1) 定例会合—毎月第二土曜日の13時～17時。非公開。
 - ① 最新情報交換
 - ② 福島原発事故の重要問題などに関する分析、検討、意見交換。
ある程度議論がまとまれば、会議や雑誌などで発表
 - ③ 新潟県技術委員会課題別ディスカッションでの議論内容の検討
 - (2) イベントの企画と実行

2015年度の成果の概要(1/4)

- 2014年度につづき2015年度も福島第一原発1号機の問題を中心に分析、検討をおこなった。
- 2014年2月に、新潟県技術委員会に田中が提案し実施された1号機原子炉建屋4階内部調査の結果、「原子炉建屋4階で水素爆発が起きていた可能性が大」であることが明らかになった。水素爆発の専門家で技術委員会課題別ディスカッションにオブザーバー参加している産業技術総合研究所安全科学研究副部門長の緒方雄二氏も同じ見解を表明している。
- これについては2015年4月にオーストリアのウィーンで開かれた国際会議「NURIS2015」に参加し、発表した。

NURIS 2015 原子力のリスクに関する 第一回INRAG 会議

2015年4月16-17日
ウィーン開催

佐藤暁（基調講演）
田中三彦（フクシマ問題発表）



16 – 17 April, 2015

1st INRAG Conference on Nuclear Risk

iNRAG International
Nuclear Risk
Assessment Group



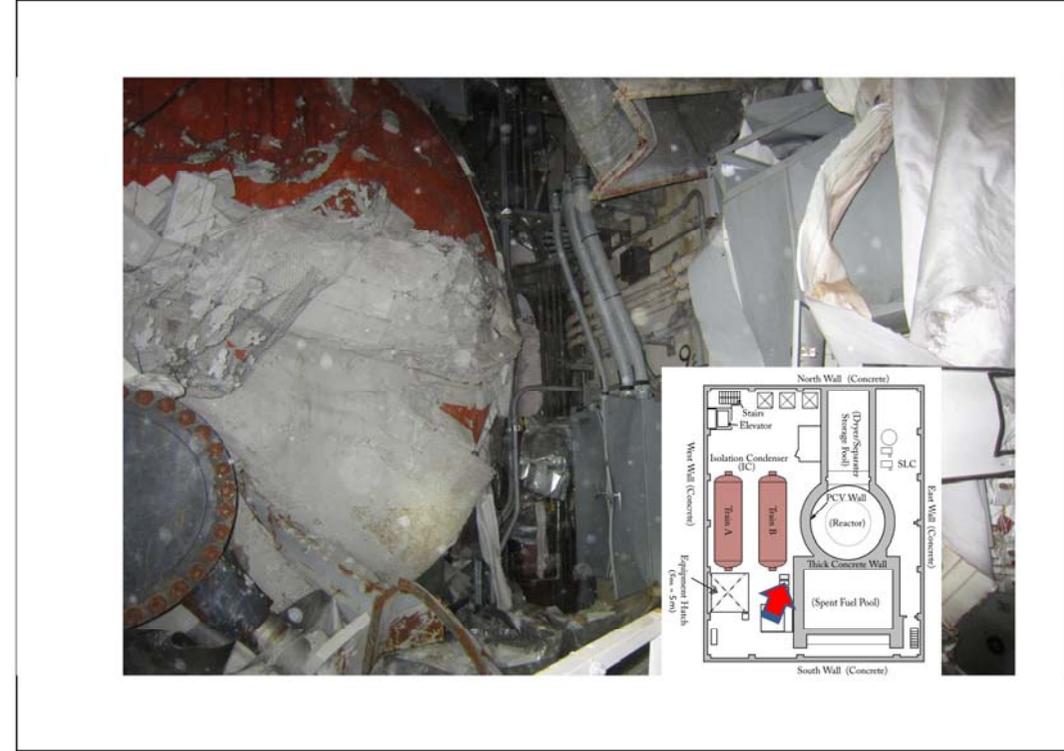
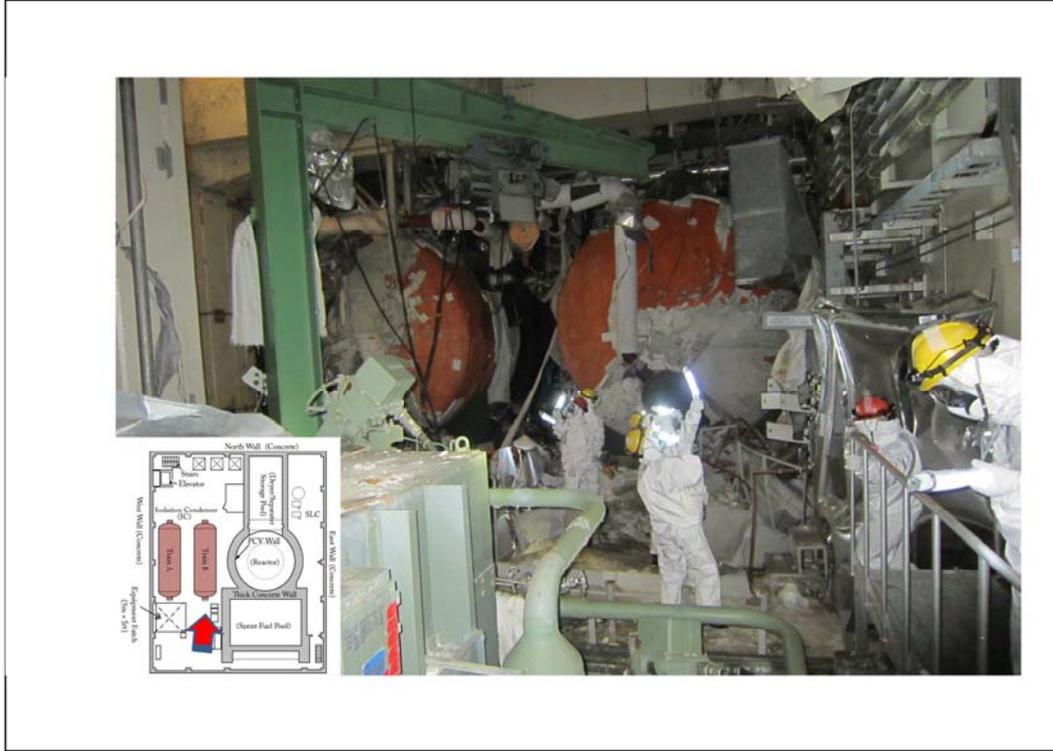


1st International Conference on Nuclear Risks

About the Possibility of 1F1 IC Piping Breakage due to the Earthquake Jolts

Vienna
April 16, 2015

Mitsuhiko Tanaka



1号機4階内部に見られる大量の雨垂れ痕



行方不明の鋼製の蓋



2015年度の成果の概要(2/4)

- 津波の敷地到達時間と1号機SBOとの関係について、東京電力ならびに原子力規制委員会は、「1号機SBOは津波による」と結論づけている。しかし、もっかい事故調のメンバー・伊東良徳氏は、東京電力が撮影した津波襲来の連続写真を、改めてピクセルレベルで詳細に分析しなおし、津波到達時間は3月11日15時38分以降であることを明らかにした。1号機のSBO時間は遅くとも15時37分であるので、「1号機のSBOの原因は津波ではあり得ない」ことになる。
- 以上について、伊東氏が雑誌「科学」（岩波書店）に論文を投稿、2016年1月号に掲載された。
- 技術委員会課題別ディスカッション1（地震と津波）に同論文を提出。

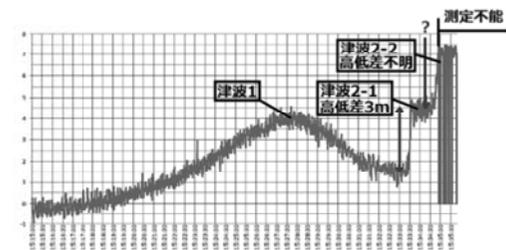


図1—波高計による津波実測波形(福島第一原発沖合1.5km地点)



図2—写真8と写真中の四角部分の一部拡大
上図の白線は本来(トリミング前)の写真の左右天地中央を示す(以下同)。

